

## 1. むらづくりの主体

(1) ふりがな **名 称** のうじくみあいほうじん **農事組合法人ファーム大島** おおしま

(2) ふりがな **所在地** とやまけんいみずしこばやし **富山県射水市小林**

(3) **地区の規模** **集落の集合体**

(4) **組織の性格** **地縁的な集団**

(5) ふりがな **代表者の氏名(敬称略)、役職**

みなもと はるお  
**氏名：源 春夫**

**役職：代表理事 組合長**

## 2. 地区の概要

総人口	農(林、漁)業 就業人口	総世帯数	総土地面積	耕地	採草放牧地	山林	
2,898 人	112 人	947 戸	170 ha	79 ha	- ha	- ha	
農家戸数	販売農家数	専業農家	第 種兼業農家	第 種兼業農家	主業農家	準主業農家	副業的農家
97 戸	97 戸	1 戸 (1%)	0 戸 (0%)	96 戸 (99%)	1 戸 (1%)	0 戸 (0%)	96 戸 (99%)
地域指定状況			農業地域類型区分				
農振：平成18年度 森林：平成18年度 都市計画：有 その他：			市 町 村		当 該 地 区		
			都市的地域		平地農業地域		

総人口から山林までは、ファーム大島関係 4 集落のデータを記入

### 3. むらづくりの内容及び成果

#### (1) 地域の沿革と概要

##### ア 地区の位置

射水市は、平成17年11月に新湊市、小杉町、大島町、大門町及び下村の5市町村が合併して誕生した。総面積は109.2km<sup>2</sup>であり、県都富山市と県内人口第2位の高岡市との間に位置している。

北アルプスに連なる飛騨山地を源流とする庄川及びその支川に広がる射水平野は、肥沃で広大な耕地であり、北陸農業の代名詞である水田単作地帯が形成されている。射水平野は、機械排水が導入される以前は水郷地帯であったが、現在は乾田化が進んでいる。

農事組合法人ファーム大島のある大島地域では、主に水稲、大麦、大豆等の土地利用型作物が栽培されているほか、この地域における県の推奨作物としてエダマメの生産拡大が図られている。

国土地理院承認 平14経農 第149号



図1 位置図

##### イ 地区の特色

大島地域では、第2種兼業農家を主体とした集落営農組合を発展させ、平成16年2月に、農事組合法人ファーム大島が設立された。

土地利用型作物に関しては、水稲、大麦、大豆等の2年3作体系を確立し、緑肥の導入等環境保全に配慮しつつ、農作業の省力化及び低コスト化を実現している。

また、ファーム大島は、枝豆やブロッコリー、チューリップ球根などの園芸作物の導入により、経営の複合化にも積極的に取り組んでおり、集落営農組合が多い北陸地域において、安定した営農活動を先駆的に実践する法人のモデルとなっている。

そのほか、庄川の清流を利用した米づくりにおいては、コシヒカリはもとより、機能が注目される「赤むすび」(富山県ブランドの赤米)の栽培なども積極的に行っている。

#### (2) むらづくりの動機、背景

##### ア むらづくりを推進するに至った動機・背景

大島地域では、昭和63年から平成7年にかけて、農村集落単位で営農機械の共同利用を行う集落営農組合が設立された。その中で赤井、小林及び八塚の3営農組合は、他集落に先立ち、経理の一元化等を行う法人組織を立ち上げた。

上記の組織を立ち上げた後も、大島地域は、都市近郊かつ第2種兼業農家が大半を占める地域であり、農地は小区画、常時排水管理が不可欠な条件不利地を抱えていることから、耕作放棄地の発生や農地転用の増加、若年就農者の減少などによって地域農業の継続が危惧されていた。

こうした状況下にあって、集落営農を主体として「地域の農業は自分たちで守っていかう」という機運が高まったことから、農事組合法人の立ち上げに向けて、地域におい

て徹底的な話し合いが行われた。

具体的には、3 営農組合間で、平成15年 2 月からの約 1 年間に約50回もの会合を重ね、その結果、平成16年 2 月に農事組合法人ファーム大島が誕生した。また、同法人には、平成18年 3 月に隣接する鳥取集落内の10戸も加入した。

### (3) むらづくりの推進体制

農事組合法人ファーム大島は、4 集落の全農家97戸で構成されており、いみず野農協、射水市等の関係機関と連携しながら、営農活動及び地域貢献活動を展開している。97戸のうち、1 戸を除き全て第 2 種兼業農家であり、機械による作業は40歳代後半から50歳代の男性が中心となって担っている。

組織の運営体制としては、理事 7 名により構成する理事会の下、組織を効率的に運営するため、以下の 6 部（各部部員 4 名）を構成し、機能分担している。

実際の農作業は、旧集落営農組合（赤井、小林、八塚及び鳥取）単位で出役者の都合を確認した上で、機械作業者、補助作業者及び指導者の 3 名を 1 班とする集落混合の作業班を編成して行っている。

具体的な各部の主な役割は次のとおり。

総務企画部：作付計画の作成・進行管理、作業ローテーションの調整

庶務会計部：庶務、経理業務

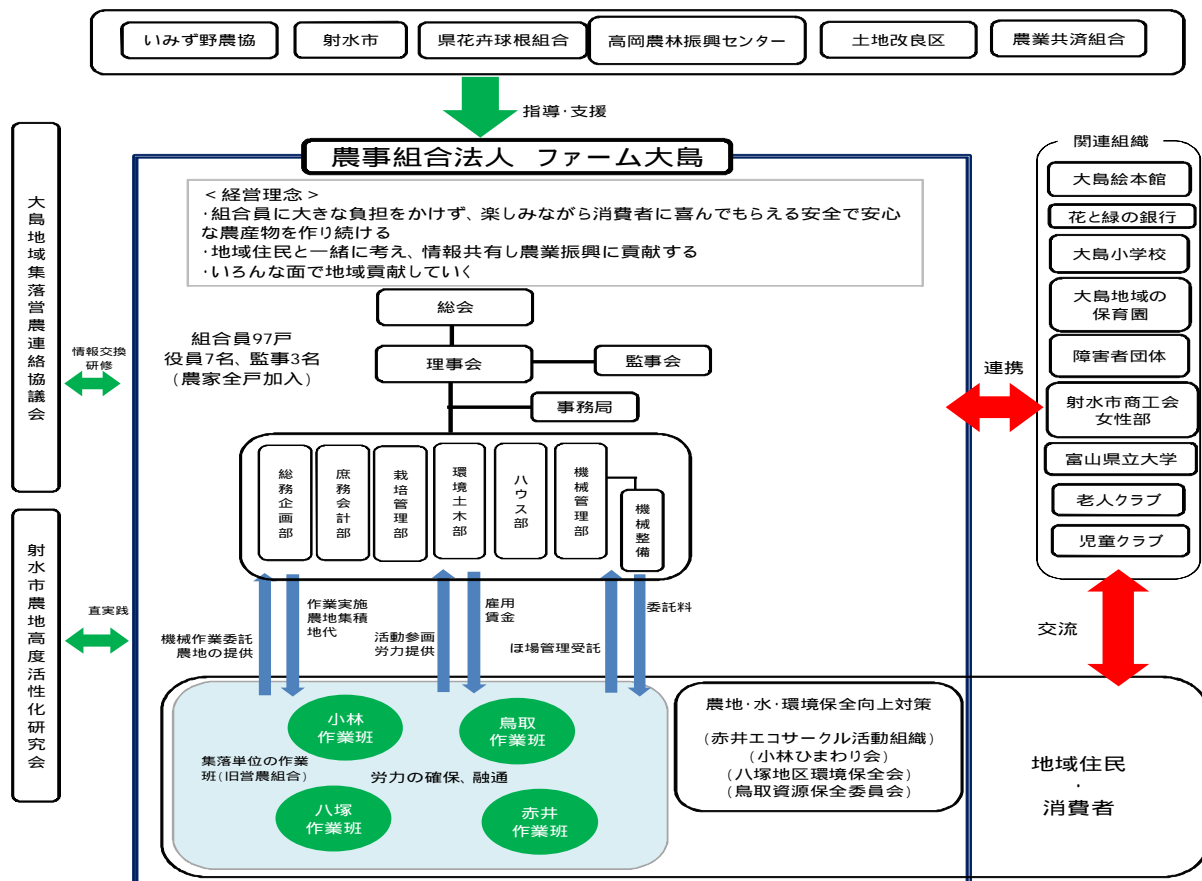
栽培管理部：米以外の園芸作物の生産・管理

環境土木部：ヒメイワダレソウの植栽の管理・指導

ハウス部：水稻移植苗の育苗、ハウス園芸の生産・管理

機械管理部：農業機械の保守、管理及び整備

図2 むらづくりの推進体制



## (4) むらづくりの特性と優秀性

### ア むらづくりの性格

ファーム大島は、「組合員に大きな負担をかけず、楽しみながら消費者に喜んでもらえる安全で安心な農作物を作り続ける」、「地域住民と一緒に考え、情報共有し、農業振興に貢献する」、「いろんな面で地域貢献していく」を経営理念に掲げ、再生産が可能な農業の展開をむらづくりのベースとしながら、地域の景観美化や地域住民とのふれあい活動に積極的に取り組んでいる。

また、「楽しむ農業、常に挑戦する農業、喜んでもらえる農業、ありがたい感謝の心」を「ファーム大島のキャッチフレーズ」として、地域全体が良くなるよう、むらづくり活動を行っている。



写真1 ファーム大島の皆さん

### イ 農業生産面における特徴

農地の高度利用及び土づくり

水稲、大麦、大豆の2年3作体系を確立し、耕地利用率120%以上を達成している。また、緑肥による土壌の改善等に努めている。

たゆまぬ研鑽による省力化・低コスト化の実現

#### (ア) 乾田V溝直播栽培の導入及び研究

平成19年から、水稲の耕起や育苗を行わない「乾田V溝直播栽培」を導入し、技術の確立に努めた。その結果、水稲の一等米比率は5か年平均で97.1%になっている。また、生産費の大幅なコスト縮減を達成している。

#### (イ) 戦略的な視察の受け入れ及び近隣営農組織との技術研究

乾田V溝直播栽培技術や法人経営が確立していることなどから、全国の研究機関や営農組合から視察者・共同研究者等が多数訪れている。

これらの機関との意見交換等を通じ、徹底した生産技術の追求や独自改良などを実施し、乾田V溝直播の研究会を主宰して地域で技術の普及・研鑽に努めている。



写真2 乾田V溝直播（直播状況）

経営複合化による農業所得の拡大

#### (ア) 枝豆

富山県が奨める1億円産地づくり支援事業に参画し、独自の栽培技術などにより枝豆の単位収量を飛躍的に伸ばしている。平成25年産のエダマメ製品単収実績は407.4kg/10aであった。

(イ) チューリップ球根

年々県内の生産者や生産量が減少する中で、県の基幹園芸作物であるチューリップ球根の生産量を安定して供給する体制を確立した。

また、平成21年度から、ネット埋め込み方式に取り組み、掘り取り作業の労働時間短縮の半減及び労働強度の軽減を達成している。

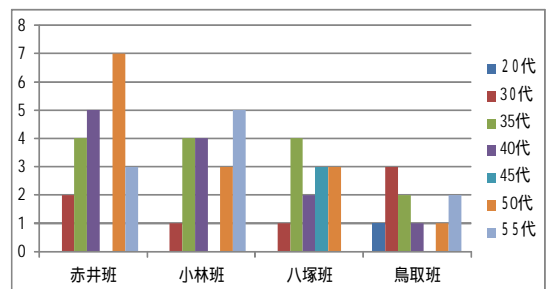
(ウ) 赤米

県育成奨励品種「赤むすび」の米ぬか層に含まれる色素の機能性に注目し、平成23年から、赤米の生産を開始した。現在はインターネット等による玄米の販売が中心であるが、各種イベントで赤米を活用したいなり寿司を販売しており、今後は加工品の開発に乗り出す考えである。

後継者確保・人材育成等につながる様々な工夫

(ア) 機械オペレーターの定年制及び後継者育成

機械オペレーターは60歳定年制を導入などによって、若者の出役を促しており、50歳未満の割合が約6割と市内の他集落に比べて高くなっている。また、独自の作業マニュアル作成、3名1班体制での技術の直接継承、機械操作の資格取得に対する者の育成・確保を図っている。



(イ) 出役しやすい条件の整備と徹底的な作業の効率化

図3 オペレーター構成員数(単位：人)

兼業先での休暇が取りやすくなるよう配慮するとともに、分散した農地で適期作業を行うため、集落混合班により団地毎に営農している。

(ウ) 女性の営農活動への参画と発想力の活用

複合経営の取り組みや赤米等の加工品開発には、女性の企画発想力が有益であり、日々の農作業を通じて法人の運営に関する意見提案が随時行われている。特に加工品の開発やイベントの企画・開発には、女性の提案によるものが多い。

ウ 生活・環境整備面における特徴

コミュニティ活動の強化と農業・農村への理解の醸成

(ア) 学校田を通じた食育活動と三世代交流

平成16年度から、大島小学校の5年生を対象とする田植え・収穫体験、収穫後の三世代交流などを行っており、地域住民の農業への理解を醸成し、地域社会とのつながりを深めている。平成24年までに約3,600名が体験しており、農作業に参加した小学生から将来は農業に携わっていききたいとの声が上がっている。



(イ) 児童・低学年向け農作業体験の実施

平成21年度から、大島小学校の3年生を対象とする農業機械の見学、枝豆やトウモロコシ、ブロッコリーの収穫体験を行っており、小学校低学年時から農作業に親しむ機会を創

写真3 学校田の田植え

出し、これまでに約600名が体験している。

(ウ) 子供たちの笑顔あふれる花づくり

平成18年度から、チューリップほ場で近隣3保育園の幼児による花つみと花絵の描画を行っており、幼少期から自然や花きにふれあう機会を提供し、将来の後継者の芽を育む地道な活動を行っている。これまでに約2,000名が参加している。



優れた地域景観づくり

平成19年度から、県内の他地域に先駆けて育苗を開始した「ヒメイワダレソウ」を畦畔や法面に植栽し、美しい景観づくりに貢献している。植栽によって、女性の雇用創出や排水障害の解消などの効果も現れており、近隣地域においてもヒメイワダレソウの植栽が一気に広まった。

また、最寄り駅において、チューリップの植栽や駅周辺の除草を市商工会女性部と共に実施することなどにより、大島地域の農村環境の美化やイメージアップに貢献している。

写真4 チューリップの花つみ

景観美化と地域住民とのふれあい活動のコラボレーション

(ア) ひまわり迷路や絵はがきコンテスト

平成19年度から、大島絵本館等とのコラボレーションにより、ひまわり迷路や絵はがきコンテストを企画・実行し、市民の農業とのふれあいの場、憩いの場を提供している。

(イ) バイオマスタウン構想への協力

平成22年度から、市のバイオマスタウン構想に協力するため、富山県立大学と連携し、バイオディーゼル燃料の原料となるひまわり栽培の技術支援を行っている。

(ウ) 農業祭などへの参画、加工品の開発

大島そばまつりなどに積極的に参画して、野菜の販売などを行っている。

当該祭りにおいて、地元産のおいしい米や野菜をPRすることによって、消費者から好評を得ている。

また、機能性食品の「赤むすび」の生産・販売を拡大している。今後はいなり寿司の加工販売や惣菜の開発・加工・販売なども行っていく。



写真5 ひまわり迷路

**表1 むらづくりに関する年表**

年 度	活 動 内 容
平成16年度	・農事組合法人ファーム大島設立 ・大島小学校学校田の支援活動、ヒメイワダレソウの植栽の開始 ・大島そばまつりに参画
平成17年度	・鳥取集落から組合員が参加 ・大島絵本館とのコラボレーションによりひまわり迷路の開始
平成18年度	・チューリップ植付け、ブロッコリーの栽培開始
平成19年度	・乾田V溝直播栽培開始 ・富山県の1億円産地づくり支援事業によりエダマメ栽培開始 ・4集落の農地・水環境保全団体と協力開始
平成20年度	・射水市商工会女性部と共同でJR越中大門駅周辺の除草及びチューリップ植付け開始 ・第57回富山県農村文化賞受賞(主催:富山県及び富山新聞社) ・先進地視察受け入れ 8団体(201名)
平成21年度	・水稲でエコファーマー認証 ・小学校低学年のブロッコリー収穫体験開始 ・先進地視察受け入れ 14団体(94名)
平成22年度	・近隣の園児や県立大門高校生のチューリップ花摘み・花絵開始 ・富山県立大学と共同で射水市バイオマスタウン構想のひまわりプロジェクト開始 ・先進地視察受け入れ 17団体(417名)
平成23年度	・赤むすびの栽培開始 ・先進地視察受け入れ 5団体(112名)
平成24年度	・ホームページ開設 ・先進地視察受け入れ 4団体(69名)
平成25年度	・先進地視察受け入れ 2団体(31名)